

令和7年度

静岡県教育研究会 書写教育研究部 夏季研究大会

書写研修部テーマ「正しく整えて書くことを生活に生かそうとし、文字文化を大切にする子を育てる書写教育」

【小学校】研究テーマ

正しく書くことを、生活に生かす書写指導

～子供たちが自ら追求したくなる授業づくり～

河津町立河津小学校

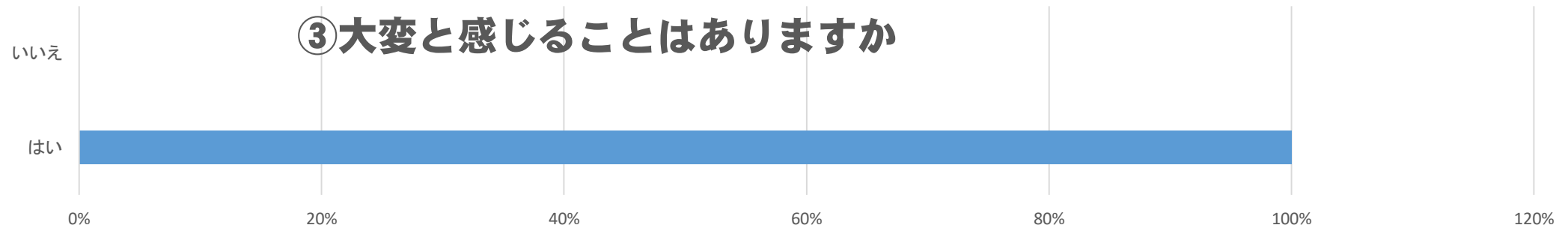
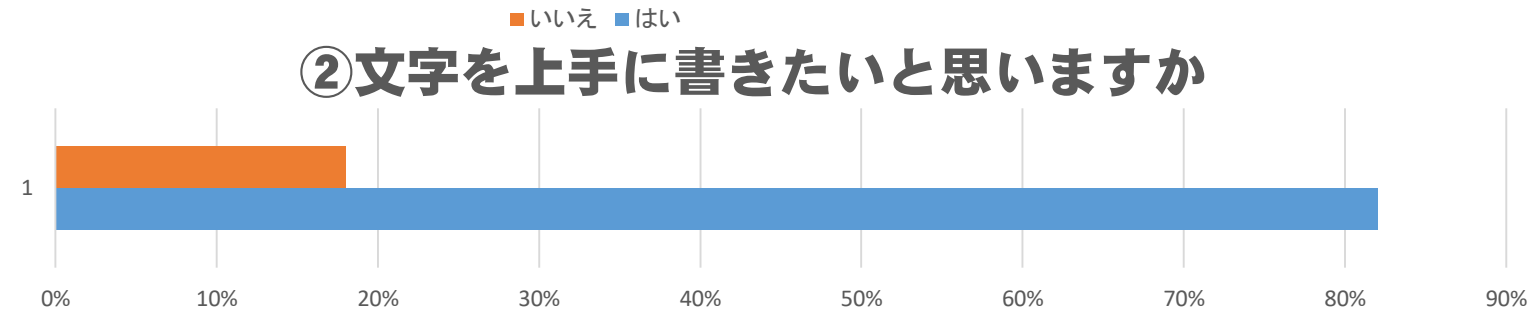
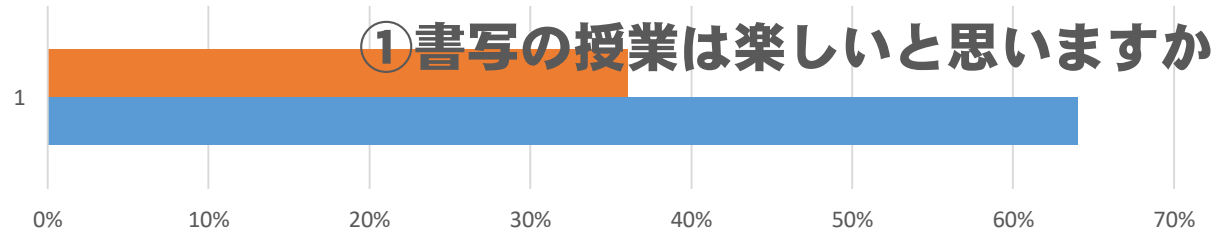
村松未央

1. 研究の実践のねらい

(1) 児童の実態

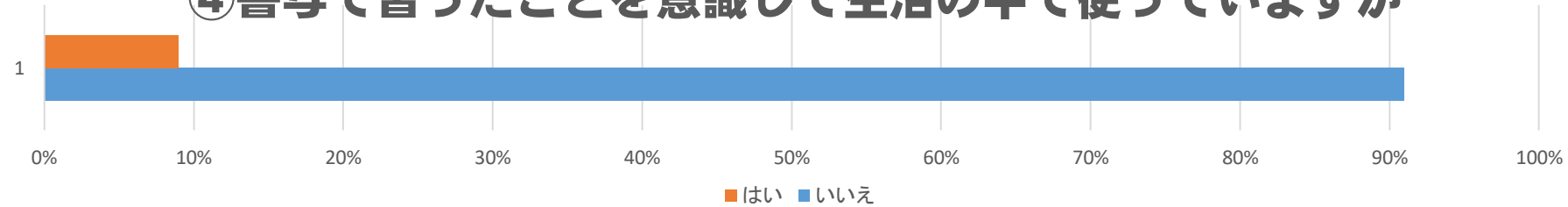
- 準備から片付けまでの単位時間の流れの習慣化
- 基準に注意しながら落ち着いて取り組める
- 書写の授業を好まない児童も・・・

アンケート①②③

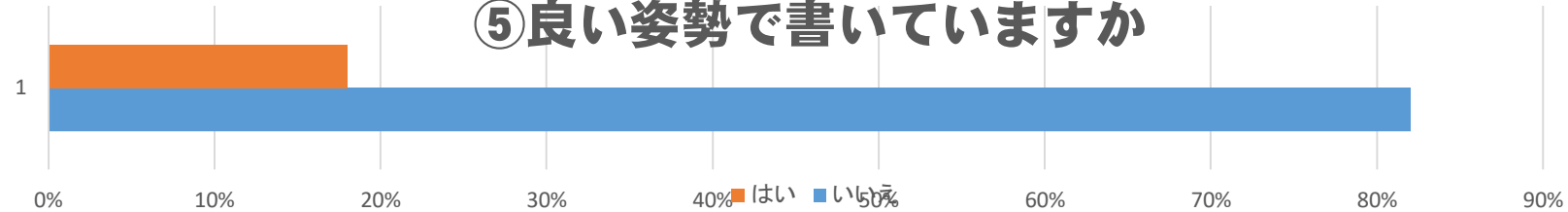


アンケート④⑤⑥

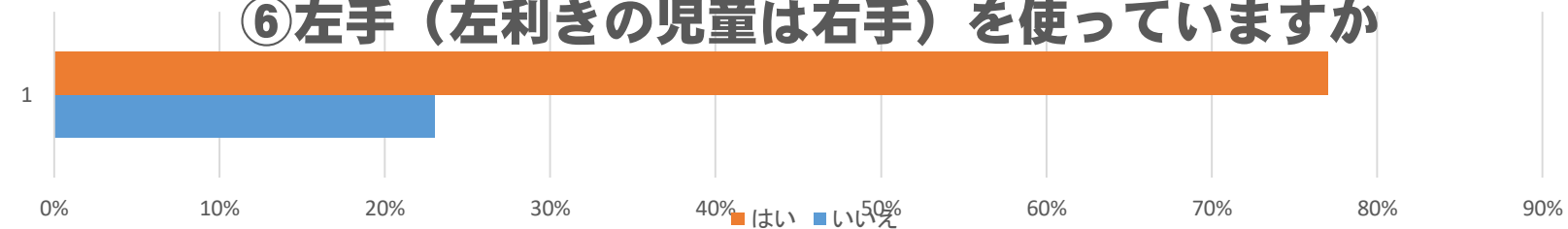
④書写で習ったことを意識して生活の中で使っていますか



⑤良い姿勢で書いていますか



⑥左手（左利きの児童は右手）を使っていますか



学習に取り組んでいる児童の様子を振り返って

- ①筆記具の持ち方・文字を書くときの姿勢
- ②文字の組み立て方への意識
- ③書写の授業での学びを普段の生活に生かす良さを、
実感できていない

(2) テーマ設定の理由

学習指導要領第5学年及び第6学年の書写に関する事項

書くときの姿勢を再確認する機会を設ける

様々な場面で正しく書くことを意識

自分で文字を書き表すことの楽しさを体験

2.研究仮説

(1)正しい姿勢と正しい筆記具の持ち方を定期的を確認することで、正しい姿勢は楽に書くことができる姿勢であることが分かり、より読みやすく整っていて正しい文字が書けるのではないか。

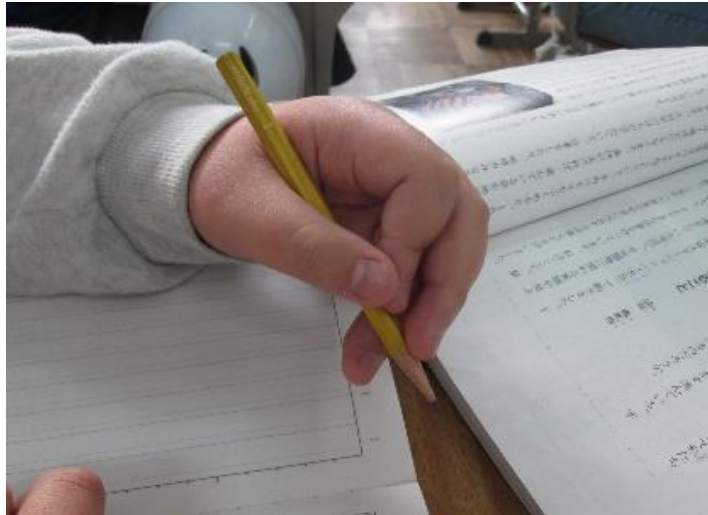
(2)毛筆学習においても、他教科と同様に課題意識を持ち、学習を進めることを大切にしていすることで、書くことをより身近に捉えることができるのではないか。

(3)筆ペンを廊下に常設し、筆は特別な筆記具ではないことや手書きの良さを知ったり興味をかき立てたりすることで、児童自身の生活場面の中に活かす力を身に付けられるきっかけになるのではないか。

3.実践内容

- (1)正しい姿勢と正しい筆記具の持ち方
合い言葉「ぺたぴんぐう」の確認
「しょしゃたいそう」の導入

現状

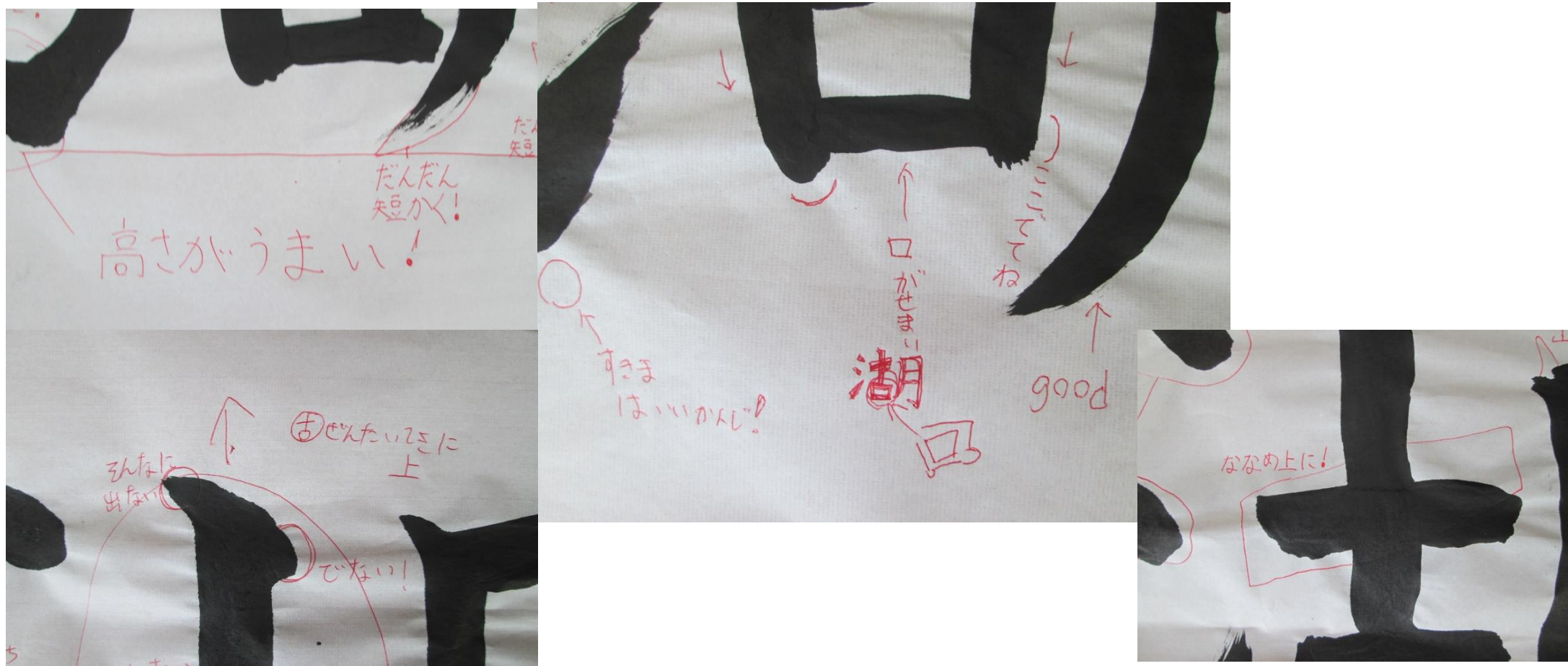


しよしや体操



(2) 追求したくなる授業の手立て

自己批評



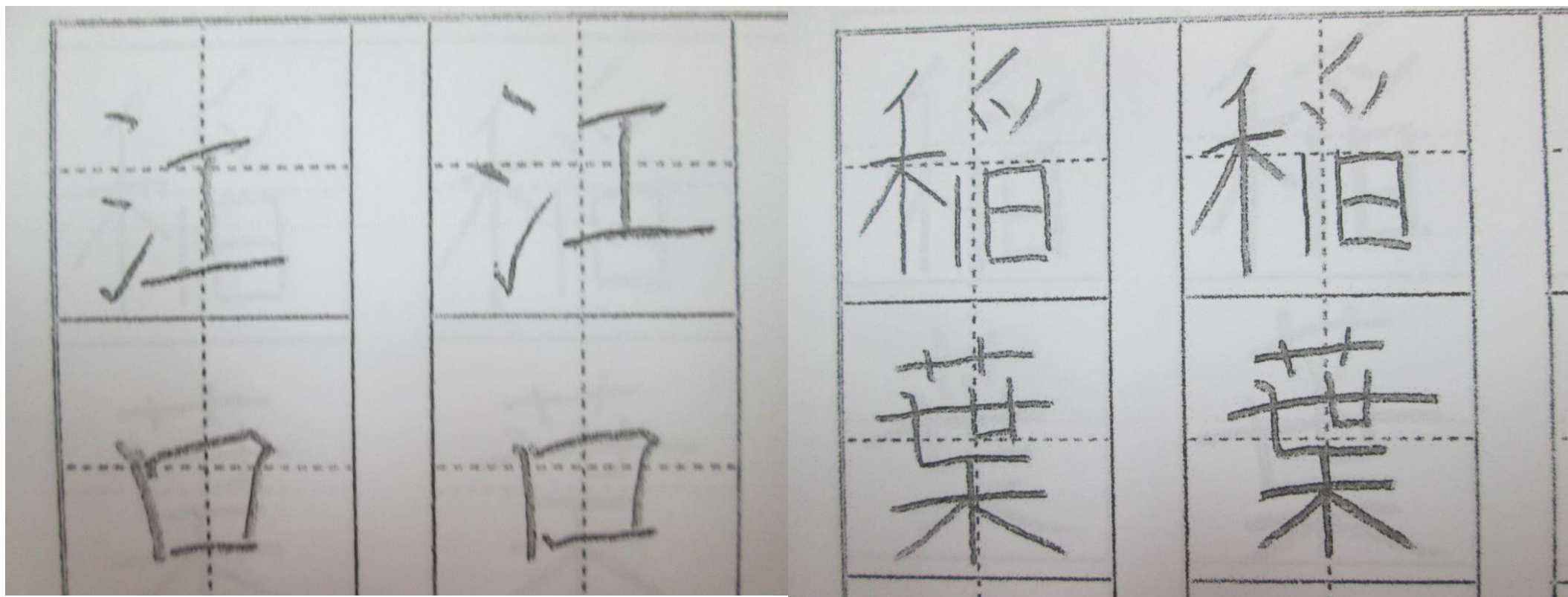
子供達同士でアドバイス



三つの部分の譲り合い



文字の組み立て方



(3) 毛筆を日常的に

筆ペンの常設

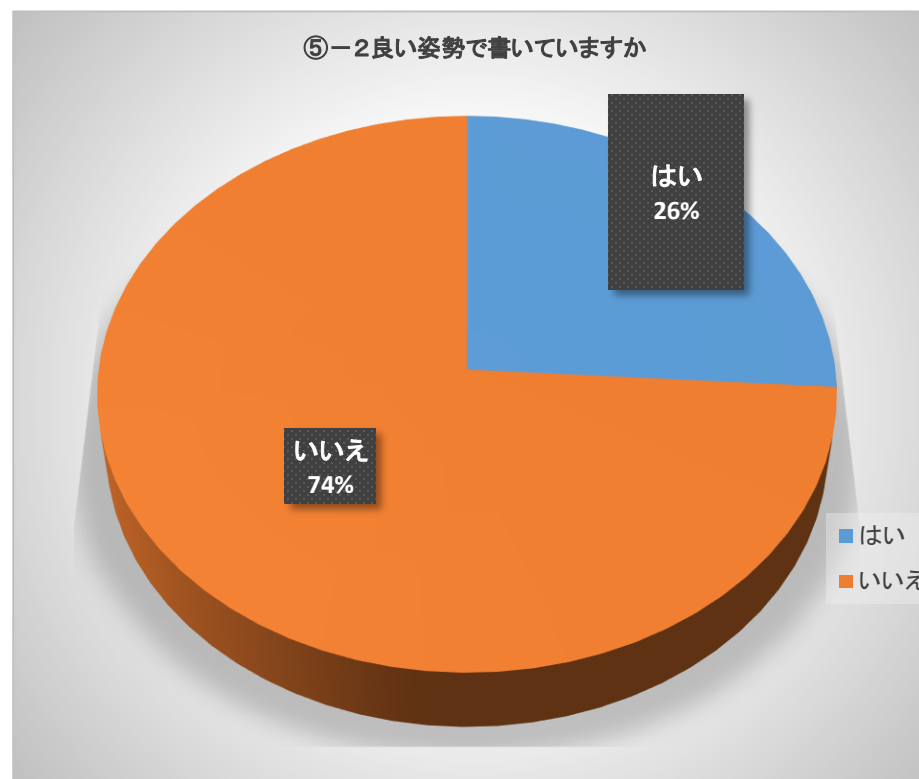
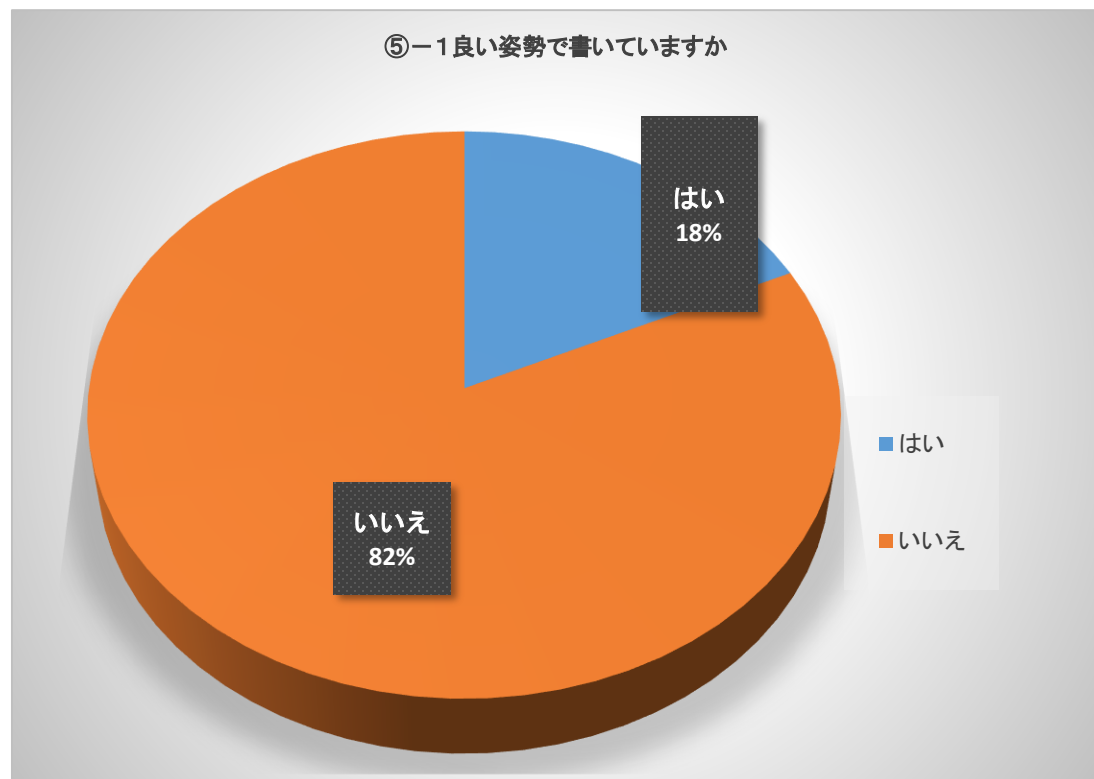


運動会の掲示物



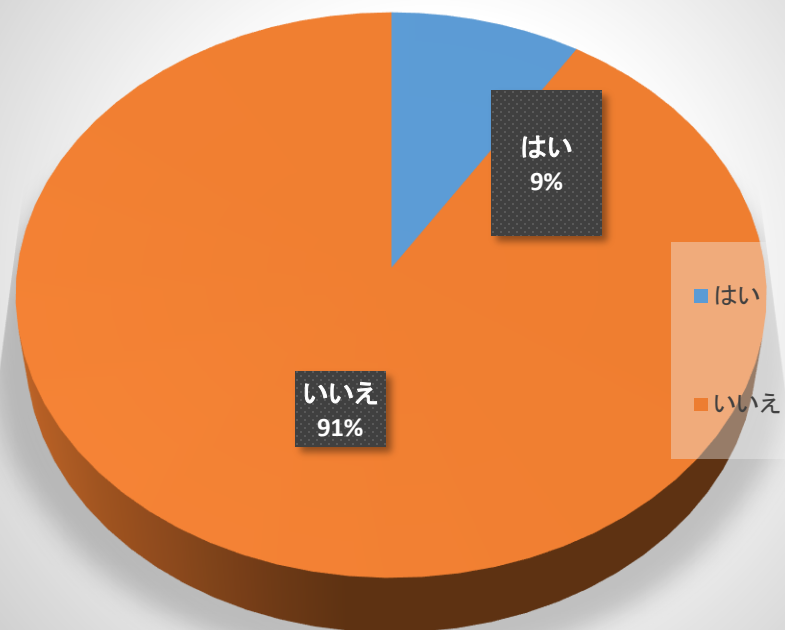
4.成果と課題

(1)正しい姿勢と正しい筆記具の持ち方を定期的を確認することで、正しい姿勢は楽に書くことができる姿勢であることが分かり、より読みやすく整っていて正しい文字が書けるのではないかな。

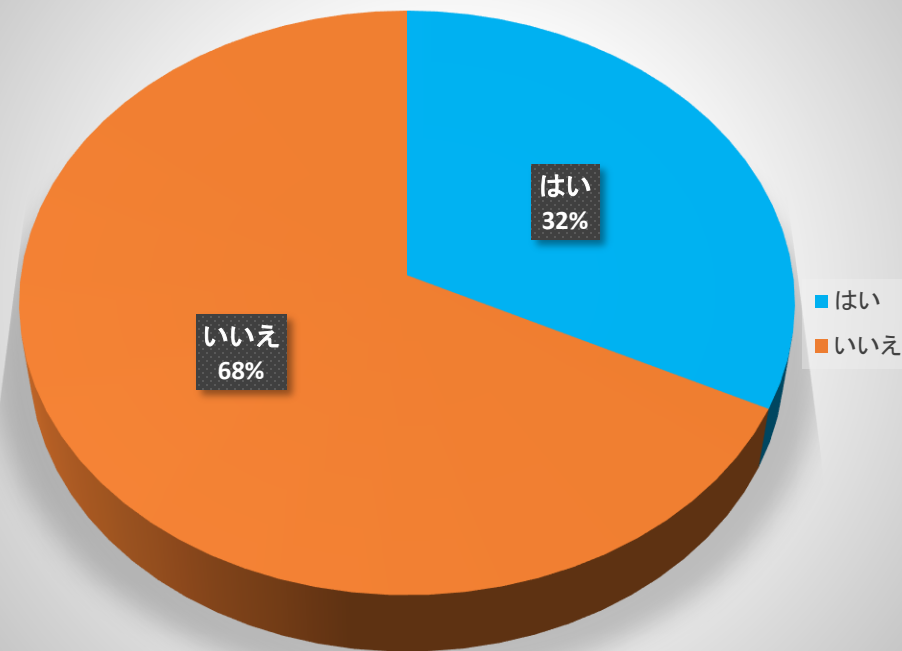


(2) 毛筆学習においても、他教科と同様に課題意識をもち、学習を進めることを大切にしていけることで、書くことをより身近に捉えることができるのではないか。

④－1 書写で習ったことを意識して
生活の中で使っていますか



④－2 生活の中で使っていますか



(3) 筆ペンを廊下に常設し、筆は特別な筆記具ではないことや手書きのよさを知ったり興味をかき立てたりすることで、児童自身の生活場面の中に活かす力を身に付けられるきっかけになるのではないかな。



伊東市書写研究部(中学校)テーマ

「文字のもつ力に気付き、 文字文化を生活に生かすことができる 生徒の育成」

書写研究部テーマ

「正しく整えて書くことを生活に生かそうとし、文字文化を大切にする子を
育てる書写教育」

1. はじめに

(1) テーマ設定の理由

① これまでの課題

- ・「席書コンクール」や「書き初めコンクール」への出品を目的にして書写教育をすることが多かった。
- ・作品の提出後は担当教員が見て終わることが多かった。

課題解決のために・・・

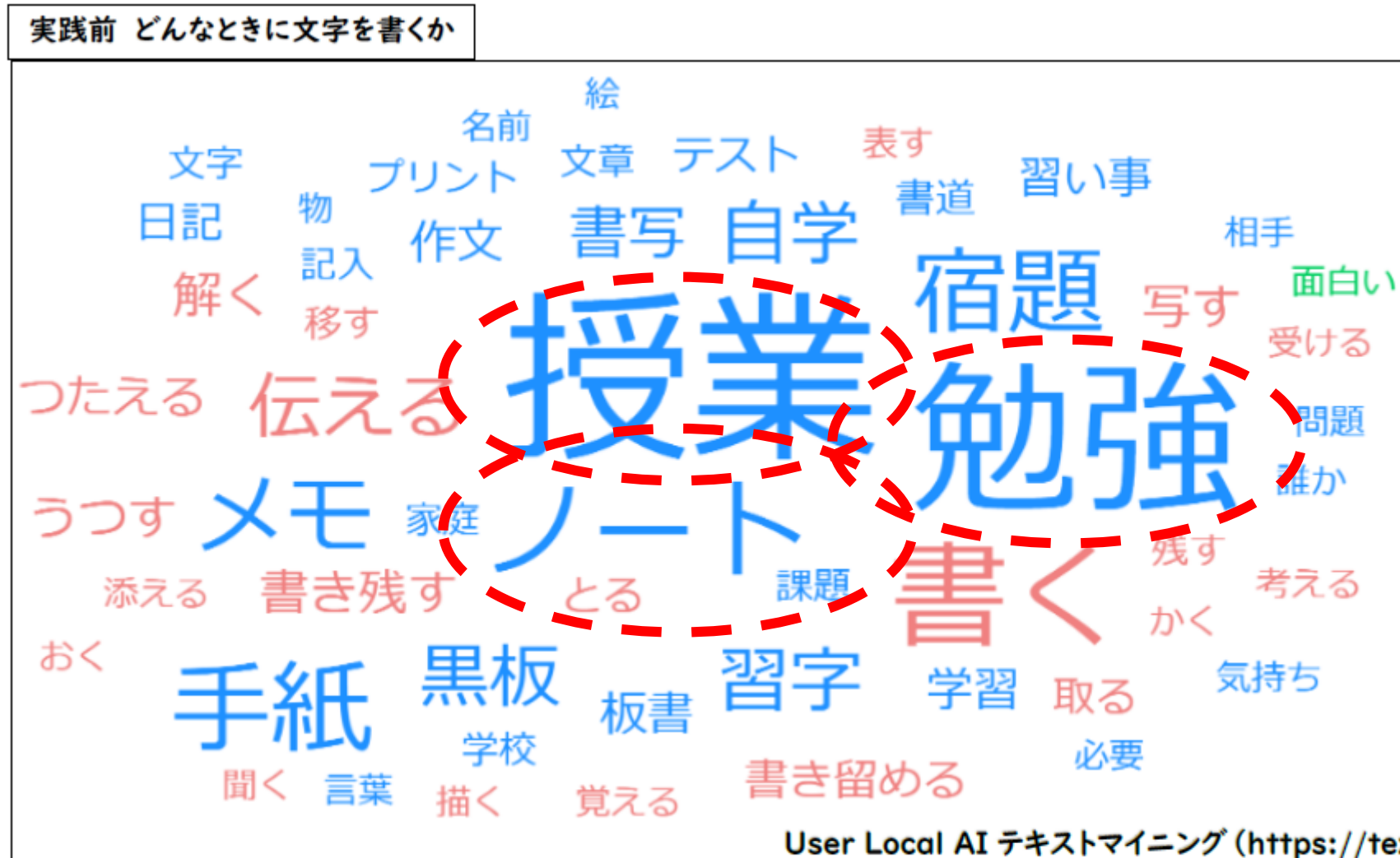
- ① 生徒が「文字のもつ力」に気付くこと
→「文字は効果的に使うことで、
人の心を動かすことができる」
- ② 相手意識や目的意識をもって表現活動すること
→「目的や相手を意識し、
国語(書写)以外の場面でも文字を用いて表現する」

(2) 研究仮説

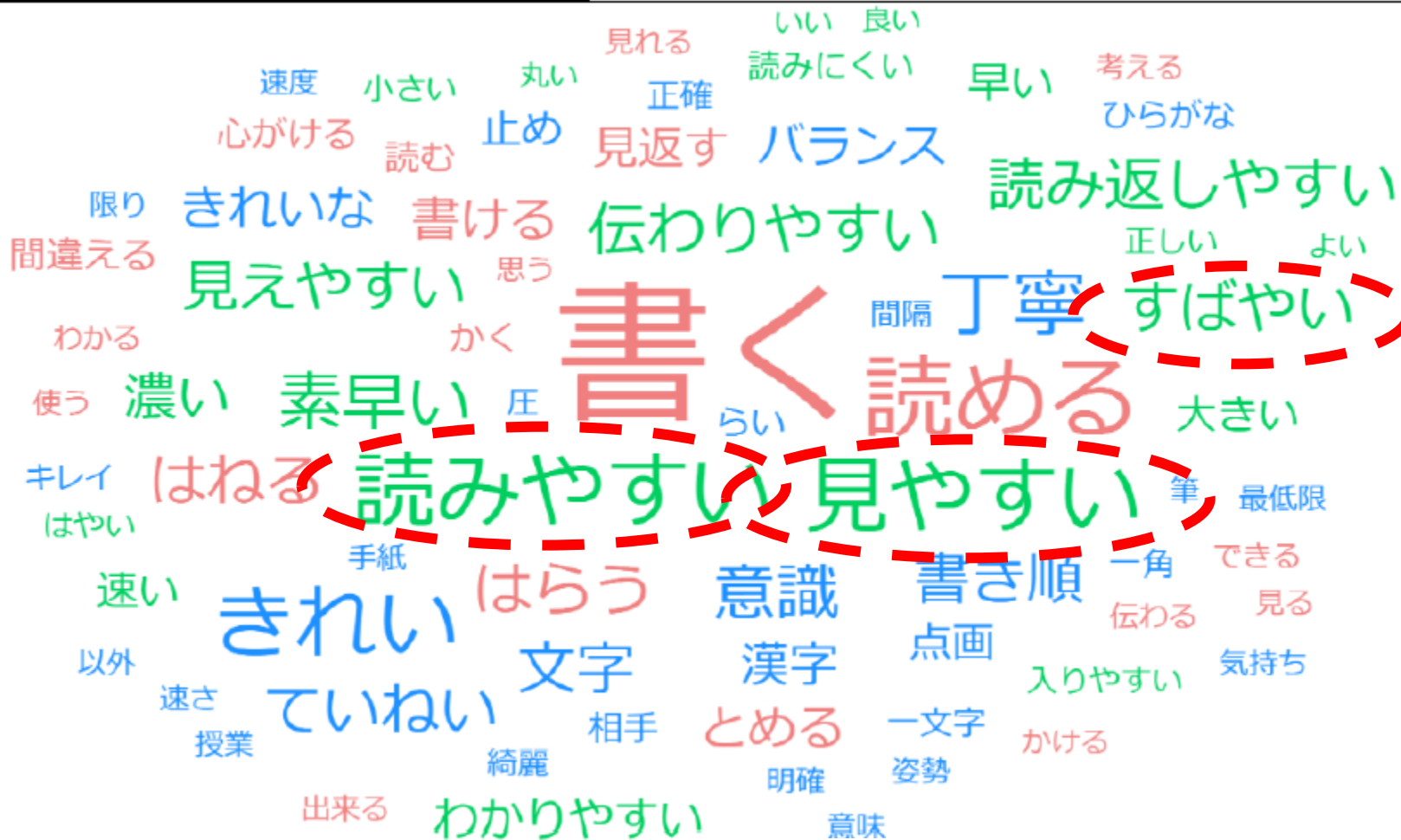
文字を通して人の心を動かしたりする
経験をする事で、文字のもつ力に
気付いた生徒は、進んで文字文化を
生活に生かそうとするだろう

「AIテキストマイニング」で生徒の実態調査を行った。

1. はじめに
(3)研究方法
生徒の実態調査

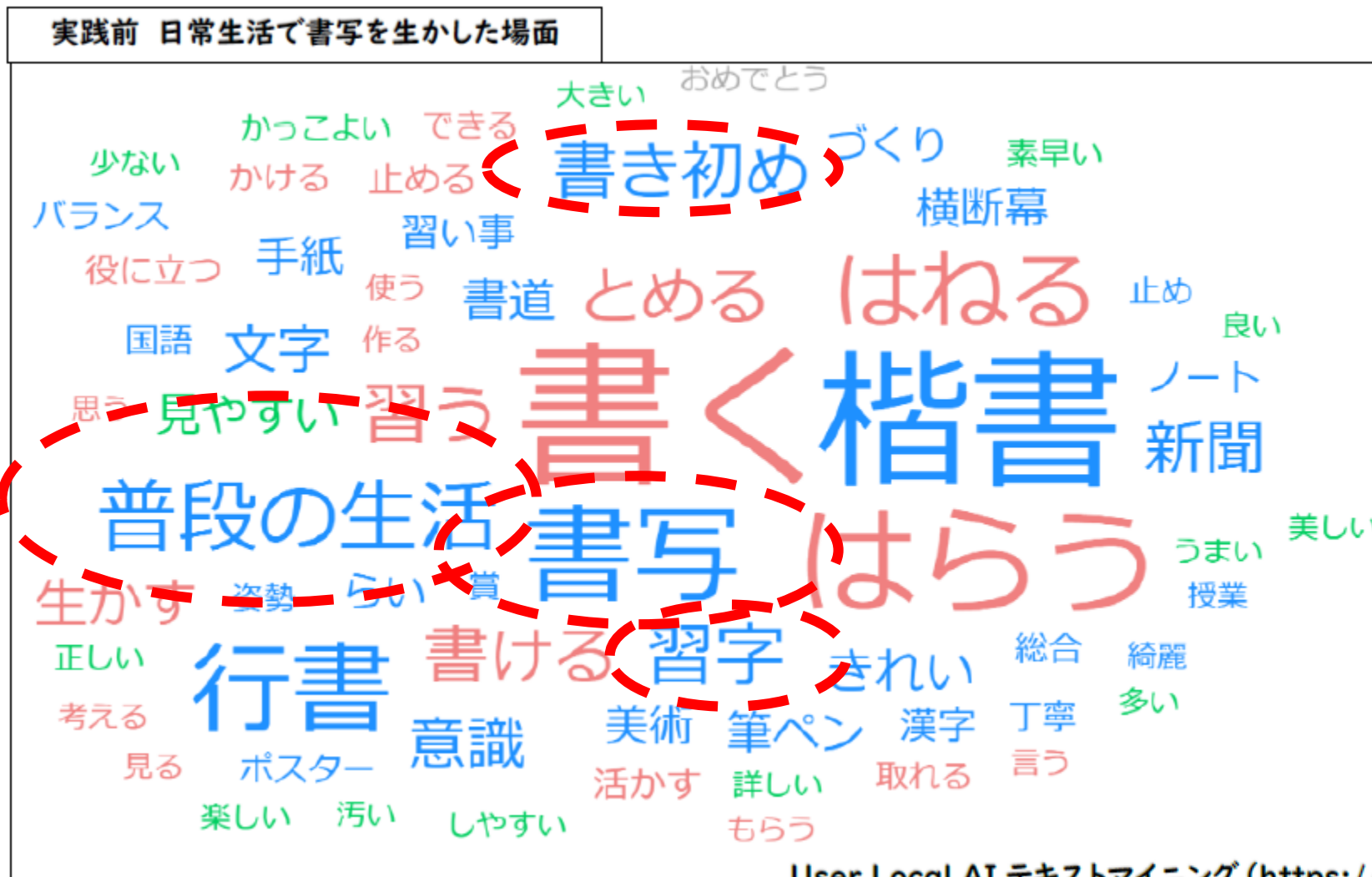


実践前 どんなことを意識して文字を書くか



User Local AI テキストマイニング (<https://textmining.userlocal.jp/>)

1. はじめに
- (3) 研究方法
生徒の実態調査



User Local AI テキストマイニング (<https://textmining.userlocal.jp/>)

生徒の実態

- 誰かのために文字を書くことは少ない
- 自分の学習のために文字を書くことが多い



文字そのものがもつ力を生かして
表現する機会が少ない

ねらい

文字そのものがもつ魅力を生かして
生活の中で「文字」を表現すること

ねらいに迫るための視点

視点① ICTの活用

視点② 教科書との関連

視点③ 単元構想の工夫

視点④ 書く動機づけ

※以下、実践報告で各視点に沿って記載

2. 実践報告(1)A中学校

A中学校の実践～1年生～

単元名:「あなたの好きな言葉を行書で書いてみよう」

- ①身のまわりの看板の書体を例示し、受ける印象を話し合う。
- ②書体の違いを理解し、行書体の学習を行う。
- ③「月光」の楷書体と行書体を比較し、点画の特徴を考える。
- ④「月光」の臨書に取り組む。
- ⑤自分の好きな言葉を書く。(タブレットで調べた書体を手本にする。)
- ⑥書いた作品を廊下に掲示し、お互いの作品を鑑賞する。

ねらいを達成するために

視点① ICTの活用

→自分が選んだ文字の行書体や筆法をタブレットで調べ、手本にした。

視点② 教科書との関連

→企業ロゴの書体に注目させ、さまざまな書体の比較を行い、行書体の特徴をより明確に提示した。

成果と課題

△ タブレットで調べても楷書体と行書体の区別がつきにくい文字があった。

→授業者が黒板で示した。

△ 行書体の雰囲気に向かない言葉を選んだ生徒もいた。

△ 調和体の言葉を選んだ生徒は平仮名で苦戦していた。

→ワークシートでサポートした。

B中学校の实践

2. 实践報告
(1) 1、2年生の实践
B中学校の实践
「私を漢字1文字で表すと……
～話の構成を工夫したり、書体の違いを
意識して文字を書いたりして自己紹介しよう～」

B中学校の实践～1年生～

单元名:「私を漢字1文字で表すと……～話の構成を工夫したり、書体の違いを意識して文字を書いたりして自己紹介しよう～」

- ①自己紹介の手本を見る。
- ②身近な看板やロゴを紹介し、書体を使い分けられていることに気付く。
- ③マッピングを行い、自己理解を深め、自分を表す漢字1文字を決める。
- ④「月光」の練習を通して、行書の特徴や書き方を学習する。
- ⑤「私を表す漢字」についてタブレットで楷書体と行書体とを見比べ、適切な書体を選び、書く。
- ⑥書いた文字を示しながら、自己紹介を行う。

ねらいを達成するために

2. 実践報告
(1) 1、2年生の実践
B中学校の実践
「私を漢字1文字で表すと……
～話の構成を工夫したり、書体の違いを
意識して文字を書いたりして自己紹介しよう～」

視点③ 単元構想の工夫(目的意識、相手意識をもたせる)

→自己紹介をするために文字を書くこと、看板やポスターの書体を比較した。

視点③ 単元構想の工夫(主体的な作品鑑賞)

→1日ごとに生徒の書いた作品を変え、作品を味わった。

視点④ 書く動機づけ(生徒の主体性を生み出すための自己選択)

→ICT機器を活用して自分が本当に表したい文字や書体を選択して書いた。

視点④ 書く動機づけ(日常生活での実践につながる振り返り)

→振り返りの項目を日常生活の中で学習したことを生かせるよう工夫した。

成果と課題

2. 実践報告
(1) 1、2年生の実践
B中学校の実践
「私を漢字1文字で表すと……
～話の構成を工夫したり、書体の違いを
意識して文字を書いたりして自己紹介しよう～」

○ 自分で好きな文字を選んで書いたこと。

○ 振り返りの中で

「班のポスターや掲示物を書くときのデザインに役立ちそう。」

「年賀状で筆ペンを使って行書で書いてみたい。」と日常生活で生かそうとする記述があった。

「楷書で書くか、行書で書くかななどの想像力が成長したと思う。美術や技術での発想につながり、役立ちそう。」という他教科に生かそうとする記述があった。

「今まで書写が下手で苦手だと思っていたけど、書写の楽しさを感じられた。」という意欲向上が分かる記述があった。

△ 単元を通して9時間費やした。年間の計画をしっかりと見なおして実践したい。

C中学校の実践

C中学校の実践～2年生～

单元名:「書体を選択して書く～自分たちの今年の漢字を書こう～」

- ①伊東市の街にある看板の書体を比較し、印象の違いについて話し合う。
- ②「雲海」を書き、行書体の点画の特徴を学習する。
- ③「自分の今年の漢字」を決めて、書く。
- ④お互いの作品を鑑賞する。
- ⑤廊下に掲示する。

ねらいを達成するために

視点① ICTの活用

→ICT機器を活用して自分の選んだ文字をどのような書体にするか交流した。

視点② 書く動機づけ(水書で準備の手間を省く)

→道具がそろわなかった生徒への対応ができた。休み時間に書くことにつながった。

視点③ 単元構想の工夫(目的意識、相手意識をもたせる)

→お互いの作品を鑑賞し、コメントした。保護者にも見てもらった。

成果と課題

- ICT機器で生徒自身の力で活動を進めることができた。
- 「誰かに見せる」という意識をもつことができた。
- △ 必要感をもたせることができたのか、疑問に残る。
- △ 個人がどれほど行書の特徴を理解できたかを把握しきれていなかった。

D、E中学校の実践

D、E中学校の実践～3年生～

単元名：

「本から考える人生～人生の先輩として後輩に素敵な本を紹介しよう～」

- ①身の回りから効果的な文字の使い方を探し、どのような印象を受けるか考える。
- ②書体や用いる筆記用具を自分で選択して、本のポスターを作成した。
- ③作成したポスターを学習発表会で展示し、下級生がコメントをした。

ねらいを達成するために

視点① ICTの活用

→身の回りにある文字を見つけた際にタブレットで撮影し、
全員で共有した。

視点② 教科書との関連

→「故郷」の学習と読書を関連させて作品を作成した。

視点③ 単元構想の工夫（発問の工夫で生徒の主体性を引き出す）

→「後輩が読んでみたくなるようなポスターにはどんな工夫が
考えられるだろうか」と相手意識をもって考える発問を投げかけた。

成果と課題

- 下級生のコメントから、文字が人の心を動かすことを実感することができた。
- 見つけた文字を共有することで多様な表現に触れることができた。
- 書写に対して苦手意識をもっていた生徒が楽しみながら課題に取り組めた。
- 国語の授業に関連させながら取り組むことができた。
- △ 文字を共有する際に、視点を定めておくとうかった。
- △ 生徒自身がもつ書く力や表現力によって、作品の出来に差が生じた。

3. 研究のまとめ

(1) 文字を通して人の心を動かしたりする経験について

- ・作品に対するコメントを読んだときや書体による印象の違い
- ・他学級や他学年の生徒、保護者の目に触れること
- ・自分で文字や書体を選択できること
- ・ICTの活用

3. 研究のまとめ

(2)文字のもつ力に気付いた生徒について

- ・生徒が書いたコメントから文字のもつ力に生徒は気づいたことが伺えた。

3. 研究のまとめ

(3)進んで文字文化を生活に生かそうとするについて

- ・班の掲示物を書体を意識して書く様子
- ・年賀状で文字を書こうとする意欲
- ・他教科で書体を選んだりしようとする姿

3. 研究のまとめ

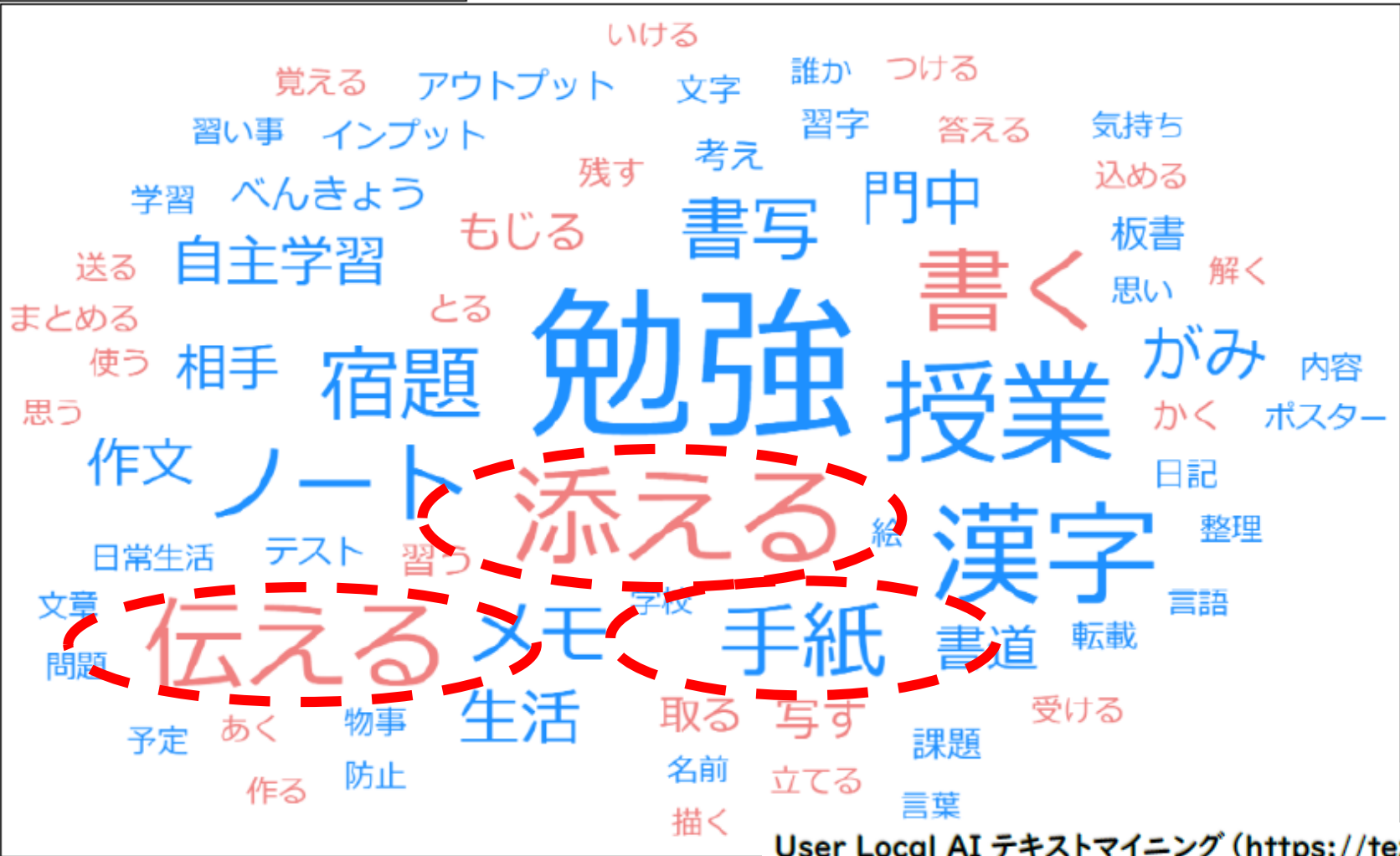
(4) 実践を通して感じた課題

- ア 生徒の文字選びへの配慮と授業時数の調整
- イ 必要感のある課題設定
- ウ 作品を作成する際の視点設定や支援
- エ 書写教育を離れての文字の活用

4. 研究を振り返って

4. 研究を振り返って

実践後 どんなときに文字を書くか



User Local AI テキストマイニング (<https://textmining.userlocal.jp/>)

4. 研究を振り返って

User Local AI テキストマイニング (<https://tex>)

User Local AI テキストマイニング (<https://textmining.userlocal.jp/>)

4. 研究を振り返って

[illegible]

User Local AI テキストマイニング (<https://textmining.userlocal.jp/>)

4. 研究を振り返って

「どうしたら生徒が書写を楽しく学習できるだろうか」

文字を書くことに対する生徒の思いは強い！

課題設定や単元構想など先生方の工夫次第で
生徒の思いをさらに燃やせる

日々の学校生活でこれからも文字のもつ力を伝えていきたい